

万博公園の木の実

13.11.28 9:30~14:00(頃)

主催: 日本野鳥の会大阪支部

担当: 平(ひら)軍二 090-6901-1425

植物写真: ほとんど 13.11..24 万博公園内で撮影

木の実と野鳥の関係

冬は落葉樹の葉が落ちて木の実が見やすいこと、北国から冬鳥が渡来していて野鳥の種数・個体数が多い季節でなので、木の実と野鳥の関係が観察しやすい時期です。

木の実に鳥が来るのは、次の二つの理由の内、どちらかです。

液果(色のついた木の実): 種子分散のため、植物側が実を食べてほしいと、鳥を待っている実
木の実の色・大きさ・形は鳥に選択された結果と思われる。

乾果(それ以外の木の実): 種子分散方式は別に持っているの、鳥に食べられては困る実

*** 種子分散** 動けない木が、繁殖範囲を広げるため、種子を遠くへ運んでもらう手段

鳥分散: 液果は種子の周りに鳥が食べたくなるような栄養=果肉をつける。

鳥に食べてほしい(種子が熟する)時期になると、表皮の色を葉の緑色と違う色に変える。

赤色・黒色・紫色など、目立つ色を付け、鳥を待っている。

風分散: 乾果は自分で動ける手段を持っている植物。一番多いのは風分散方式である。

風分散の方法としては、実に①翼をつける、②長い毛をつける、③軽くするなど色々。

鳥は風分散種子の栄養価に目をつけ食べるので、木の実にとってはお邪魔虫といえる。

その他分散: 鳥以外の動物に運んでもらう動物付着分散や、水流分散がある。



鳥媒花

動けない植物が動くのは、年2回、花の季節と実の季節です。今日の観察は、種子散布が中心ですが、今花が咲いている木は、鳥に花粉媒介を期待している鳥媒花です。(春~秋に咲く花は昆虫に花粉媒介を依存している)
鳥媒花は、ウメ・ツバキ・サザンカ・ビワなどです。



(今日の野鳥観察リスト)

科名	種名		
カイツブリ	カイツブリ		
ウ	カワウ		
サギ	アオサギ	コサギ	
カモ	カルガモ	マガモ	ヒドリガモ
タカ	オオタカ	ハイタカ	
ハト	キジバト	ドバト	
カワセミ	カワセミ		
セキレイ	キセキレイ	ハクセキレイ	セグロセキレイ
ヒヨドリ・モズ	ヒヨドリ	モズ	
ツグミ	ジョウビタキ	ルリビタキ	シロハラ
	ツグミ		
ウグイス	ウグイス		
エナガ	エナガ		
シジュウカラ	シジュウカラ	ヤマガラ	ヒガラ
メジロ	メジロ		
ホオジロ	アオジ		
アトリ	カワラヒワ	アトリ	イカル
	シメ		
ハタオリドリ	スズメ		
ムクドリ	ムクドリ		
カラス	ハシボソガラス	ハシブトガラス	
観察種数 計			種





カラタチ



カリン



ギンドロ



クスノキ



クヌギ

アベマキ



クヌギ



クロガネモチ



クロマツ



ケヤキ



コナラ



コノテガシワSP



サザンカ



サルスベリ



ヒノキ Y



X サワラ



サンシュユ



シナサワグルミ



シャリンバイ



ジュウガツザクラ



スギ



ススキ



スダジイ



セイタカアワダチソウ



センダン



タブノキ



タラヨウ



タンキリマメ



チャ



トウカエデ



ドウダンツツジ



トウウネズミモチ



トペラ



ナツハゼ



ナワシログミ



ナンキンハゼ



ナンテン



ネムノキ



ハギ



ハゼノキ



ハマヒサカキ